

障がい当事者部会 報告書

会議名	第2回 障がい当事者部会		
開催日時	令和5年3月9日(木) 14時~16時		
開催方法	対面(板橋区立グリーンホール 1階ホール)		
出席者数	8名(代理1名、臨時1名、欠席1名)	傍聴者数	2名

報告事項(4件)

議題名	地域生活支援拠点等の整備について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点等の整備について、現在までの進捗状況を報告。 ・赤塚ホームについては、現在、条例改正案を議会で審議している。正式に決まり次第、当部会でも情報を共有していく。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待相談受付体制を構築したとあるが、具体的な方法を教えてほしい。聴覚障害者協会でも24時間で相談を受けているため、参考に伺いたい。 →民間に委託し、コールセンターが電話受けるという仕組み。相談内容については、コールセンターから翌日朝に区へ報告される。緊急時は、コールセンターから直接警察に通報する形式をとっている。 ・虐待相談受付に関する夜間窓口の対応件数は何件か。また、グループホームとの連携について、区内グループホームに対し、何か話をもちかけているのか。 →夜間窓口の受付件数は年間6件で、虐待以外の相談も含めると10件ほど。グループホームとの連携については、まだ話ができている。 ・地域の体制づくりについて、病院と地域包括支援センターとの連携が重要であるが、まだ見えてこない。また、高次脳機能障がいにおいては、早ければ40歳から介護保険を優先して使わなければならない。ケアマネージャーが障がい福祉サービスを熟知してほしいと願う。 →病院間の連携は体系的には明示していないが、関係機関の会議で関係性を深めているところである。徐々に障がい福祉分野を固めていくうえで、地域包括サービスをどうするか。今は明言できないが、今後も介護と福祉の分野を連携させていきたい。 ・特に高齢の方で、計画相談に繋がっておらず、セルフプランを利用している方がとても多い。計画相談支援事業所は新規の受け入れが取り扱われていない状況だと思うが、区分判定を受けていない人たちに、どのように周知していくのか不安を感じる。まだ繋がっていない方へ内容を示し、ご家族に計画相談と繋がって欲しいことを、区から積極的に周知して欲しい。区分判定が必要なことについても、保護者の方に区から説明して欲しいと感じた。 →区が一斉に各家庭に調査することは難しい。まずは問題ありという家庭を福祉事務所等で把握し、まずはその家庭から進めていく。区分判定を受けていくことも目的であり、福祉事業所との関係づくりのきっかけにもなる。周知については、然るべきタイミングで説明できればと思う。

議題名	相談支援部会からの報告
概要	相談支援部会の活動の一環として、計画相談支援に関する出張説明会を実施するため、情報提供する。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを見ると、計画相談支援は指定特定相談支援事業者と指定障害児相談支援事業

者だけが作成できると捉えられる。ケアマネージャーも作成していることを記載した方がわかりやすい。

議題名	サポートファイルの運用開始について
概要	運用を開始したため、報告する。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンロードできない方や書き留めるまでいかない方などに対して、運用をどう進めていくか。活用されることが大事。他区などを参考にしてほしい。 →ダウンロードできない方へは、地域生活支援係へ問い合わせしてほしい。運用に関して、作って終わりという自治体も中にはある。今回、各部署に運用開始について周知し、今後、運用に関する課題等、皆で考えていく。メインとなる児童発達支援事業など、様々なところからの活用方法を考えていけたらと思う。

議題名	第8期 障がい者当事者部会の活動報告
概要	令和3～4年度、当部会で行ってきた活動をまとめたため、報告する。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・私はコロナに3度り患した。(聴覚障がいのため)電話ができない。本当に困った。そのようなエピソードも、当事者の意見として発信したい。

その他

議題名	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて協議、共有しておきたい内容について ・部会活動の感想について など
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年5月に障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行された。これからどのように発信するのか、共有していくか教えて欲しい。 →次年度、次期障がい者計画策定をする。その過程において、必要に応じて周知していきたいと思う。 ・情報アクセシビリティは、企業の中の話ではなく市民に対してと言われているが、視覚障がい者への就労を支援している私の立場から言うと、働いている視覚障がい者へのアクセシビリティが非常に難しいため、そこを考えてほしいと感じる。働いている視覚障がい者が、やりがいをもって働くことができるような環境への整備が重要。 ・2年の任期はあっという間だった。オンラインを併用しての開催もあったが、同時に不便さもあった。今回、顔を合わせられてよかった。高次脳機能障がい者はコロナ禍においても変わらず増えている。減りはしない。ピアカウンセリングを行っているが、ピアの方の高齢化が問題となっている。ピアの方が続かないという状況がある。 ・障がい者の理想的な姿がどういう姿なのか、早く知りたいと思う。自分自身、苦労してきた。私は答えが見つからなかった。障がい者がどのようなあり方がいいのか知りたかった。その光が見えた気がする。 ・8050問題や会員の高齢化、医療的ケアの問題などを抱えている。自分のカテゴリだけでなく、他のカテゴリを理解しつつ、共通点を見つけながら進んでいくことが大事。 ・会員の高齢化が問題。若い世代が入ってこない。なぜかという、共働き世帯が多いことが理由。活動に参加できない。そのような状況で学校を卒業したとき、3～4時に終わってしまう福祉サービスの体制が時代についてこない。住み慣れた町で暮らしていくためには、どのようなサービスが必要か。80代の親御さんが安心して預けることができる場所が見つかればいいと思う。